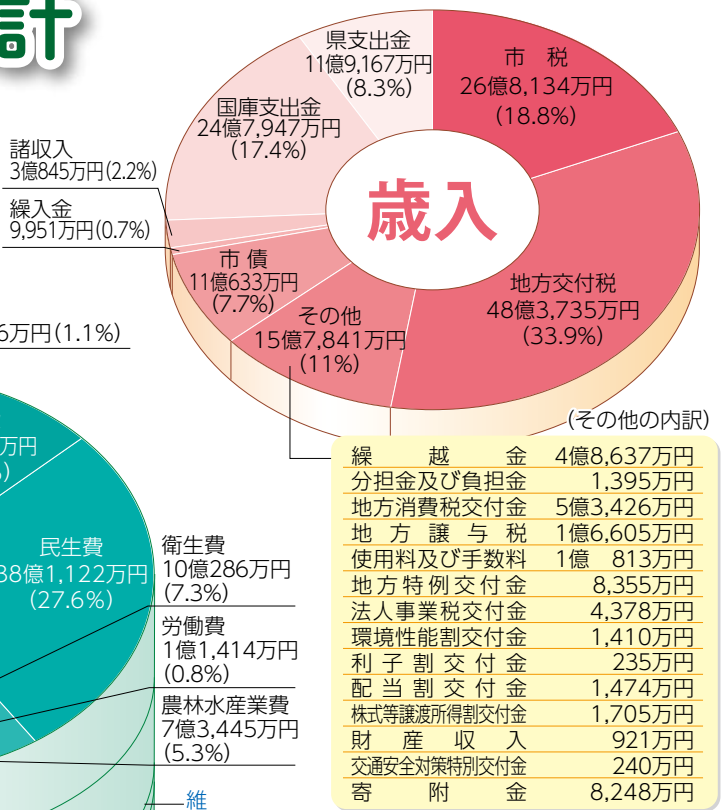


令和3年度の決算状況

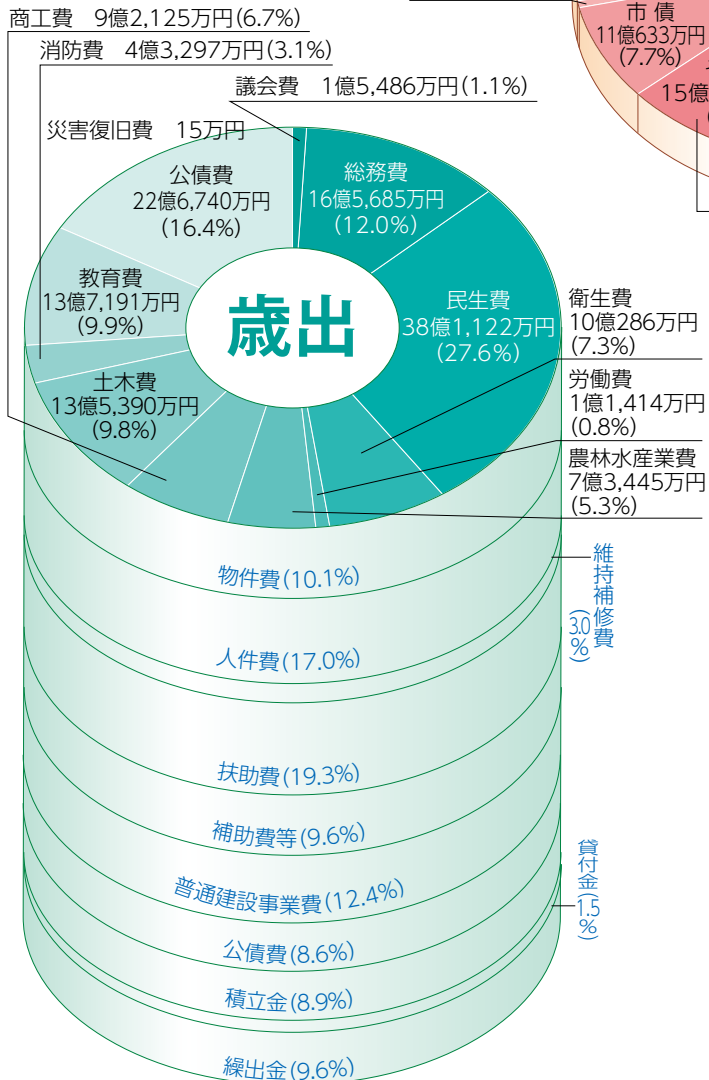
市では年2回、市の財政状況を公表しています。
今回は、令和3年度の一般会計・特別会計の決算状況をお知らせします。

歳入総額
142億8,253万円

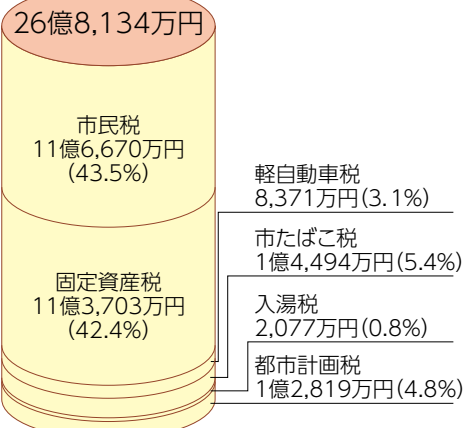


一般会計

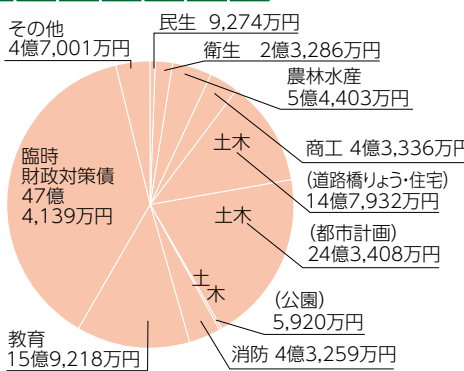
歳出総額
138億2,196万円



市税の収入状況



一般会計 合計125億1,176万円
目的別市債残高



特別会計

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差し引き
育英資金	7,449万円	6,987万円	462万円
下水道事業	8億6,723万円	8億6,714万円	9万円
農業集落排水事業	1億7,676万円	1億7,676万円	0万円
国民健康保険	24億5,660万円	24億4,825万円	835万円
後期高齢者医療	3億5,058万円	3億4,992万円	66万円
介護保険(保険事業勘定)	28億2,292万円	27億9,562万円	2,730万円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,006万円	1,006万円	0万円
市有林造成事業	5,021万円	5,021万円	0万円

市有財産の状況

(令和4年3月31日現在)	
建物	14万7,047㎡
土地	2,279万4,460㎡
立木	30万8,426㎡
基金	
現金・預金等	42億1,645万円
うち財政調整基金	17億6,658万円
うちその他の基金	24億4,987万円
土地	2,951㎡
有価証券	3億1,400万円
出資金	3億8,169万円
債権	1億9,296万円

市債残高の状況

一般会計	125億1,176万円
下水道事業	50億4,166万円
農業集落排水事業	11億9,584万円
市有林造成事業	4,090万円
合 計	187億9,016万円

指標でみる財政事情

	経常収支比率	財政力指数
R3年度 勝山市(速報値)	85.0%	0.42
県内9市平均(速報値)	88.1%	0.62
R2年度 勝山市	92.5%	0.44
県内9市平均	92.6%	0.64
全国平均	92.3%	0.64

財政健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
勝山市(速報値)	—	—	8.4	58.0
早期健全化基準	13.93	18.93	25.0	350.0
県内9市平均(速報値)	—	—	8.2	61.9

***用語解説**

【経常収支比率】財政構造の弾力性(余裕)をあらわしたもので、毎年経常的に収入される財源のうち、人件費・扶助費・公債費など、必ず支払う経費の割合。

1か月の家計に例えると、食費や家賃、光熱費、水道代、ローン返済など毎月決まって支払わなければならない経費の合計が、給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

【財政力指数】地方公共団体の財政力をあらわしたもので、

一般の家庭に例えると、子どもが別居している場合、標準的な生活費(家賃や食費など)に対する標準的な収入(給料など)の割合です。なお、標準的な生活費と標準的な収入の差額で不足が生じると親からの仕送り(普通交付税が必要となります)。

【実質赤字比率】一般会計などの実質赤字が標準財政規模(地方公共団体が自らに使える財源の標準的な収入に占める割合)を超過する割合。

サラリーマン家庭に例えると、一年間の収入と支出の差において赤字が生じた場合、赤字額がその年の家庭の給料総額に占めるかをあらわしたものです。

【経常収支比率】財政構造の弾力性(余裕)をあらわしたもので、毎年経常的に収入される財源のうち、人件費・扶助費・公債費など、必ず支払う経費の割合。

1か月の家計に例えると、食費や家賃、光熱費、水道代、ローン返済など毎月決まって支払わなければならない経費の合計が、給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

【財政力指数】地方公共団体の財政力をあらわしたもので、

一般の家庭に例えると、子どもが別居している場合、標準的な生活費(家賃や食費など)に対する標準的な収入(給料など)の割合です。なお、標準的な生活費と標準的な収入の差額で不足が生じると親からの仕送り(普通交付税が必要となります)。

【実質赤字比率】一般会計などの実質赤字が標準財政規模(地方公共団体が自らに使える財源の標準的な収入に占める割合)を超過する割合。

サラリーマン家庭に例えると、一年間の収入と支出の差において赤字が生じた場合、赤字額がその年の家庭の給料総額に占めるかをあらわしたものです。

【連結実質赤字比率】一般会計(一般会計など)だけでなく、その他の特別会計を含む(の実質赤字が標準財政規模に占める割合)。

【実質公債費比率】一般会計などが負担する市債などの償還金が標準財政規模に占める割合。

別居している子どもを持つ家庭に例えると、親のローンのほか子どものローンを親が肩代わりして返済している場合、その返済金の合計が、親の給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

【将来負担比率】一般会計などが将来負担すべき債務が標準財政規模に占める割合。

別居している子どもを持つ家庭に例えると、親のローンの残高、子どものローンの残高、親が肩代わりして返済する額、家族の将来の冠婚葬祭などに係る経費の総額から、それに充てることができる財源(貯金など)を差し引いた額が、その年の給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

歳入

市税は、1・8%減の26億8134万円となりました。このうち個人市民税では、納税義務者数が大幅に減少したことにより減額となったが、法人税は均等割、法人税割ともに増額となりました。国から交付される地方交付税は、経済対策を実行するための地方単独事業財源として臨時経済対策費が創設されたほか、平年以上の降雪があり、市

歳出

総務費は、特別定額給付金給付事業の皆減が大きく影響し、60・6%減の16億5685万円となりました。

衛生費は、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種を開始したことにより、7・1%増の10億286万円となりました。

公債費は、減債基金積立金が臨時財政対策債償還基金費の創設などにより、85・4%増の22億6740万円となりました。

令和3年度末の財政調整基金残高は、決算剰余金の1/2と運用により発生した利子を積み立てたことから、前年度末から1億4698万円増加し、総額17億6658万円となりました。

一般会計の市債残高は、前年度末から3570万円減少し、総額11億176万円となりました。また、このうち臨時財政対策債を除いた普通債(建設事業債)の残高については、前年度から1955万円増加し77億7037万円となりました。

総括

令和3年度勝山市一般会計決算は、歳入が142億8253万円、歳出が138億2196万円となり、歳入で11・3%の減、歳出で11・5%の減前年度比(以下同じ)となりました。なお、歳入歳出の差引きのうち翌年度へ繰り越さなければならぬ財源2888万円を引いた4億3169万円が実質的な黒字となっています。

道除排雪経費などの特殊財政需要分が平年以上となったことなどにより、10・2%増の48億3735万円となりました。

その他の財源では、特別定額給付金給付事業費補助金が皆減となったことなどにより国庫支出金が47・6%減の24億7947万円となったほか、道の駅隣接地の整備を実施したことなどにより、県支出金が4・1%増の11億9167万円となりました。